

A light blue silhouette of the island of Hokkaido is centered in the upper half of the image, set against a solid dark blue background.

20th

20周年記念誌

「集えひとつに!!」心と地域の豊かさを求めて



きたみらい農業協同組合



20周年記念誌

「集えひとつに!!」心と地域の豊かさを求めて



きたみらい農業協同組合



JA綱領

わたしたちは

- 1.地域の農業を振興し、わが国の食と緑と水を守ろう。
- 1.環境・文化・福祉への貢献を通じて安心して暮らせる豊かな地域社会を築こう。
- 1.JAへの積極的な参加と連帯によって、協同の成果を実現しよう。
- 1.自主・自立と民主的運営の基本に立ち、JAを健全に経営し信頼を高めよう。
- 1.協同の理念を学び実践を通じて、共に生きがいを追求しよう。

経営理念

- 1.私たちは「全ては組合員のため」という奉仕精神のもと、
多様化する組合員ニーズに的確に応え、その健全経営の手助けを行います。
- 2.私たちは、組織・事業活動を通じて、組合員、利用者、地域から
信頼される人材づくりに努めます。
- 3.私たちは、食と緑を守り、地域農業を振興することで、
地域社会の活性化を図ります。



20th Anniversary



Contents

発刊にあたって	4
発刊を祝して	6
組合の概要	12
現役員・参与	14
歴代会長・常勤役員・代表監事・参事	16
JAの主な施設	18
加工商品	24
第1章 JAきたみらい誕生	26
第2章 20年のあゆみ	31
第3章 女性・青年組織、生産組織、団体のあゆみ	77
第4章 総代会の記録	145
第5章 データで見るこれまでのあゆみ	157



きたみらい農業協同組合
代表理事組合長 大坪 広則

組合員の営農と生活の向上を図るために、平成15年2月1日に温根湯・留辺蘂・置戸町・訓子府町・相内・上常呂・北見市・端野町の8JAが大同団結による広域合併を成し遂げ、「JAきたみらい」が誕生してから早いもので20年の節目が過ぎました。

この合併から今日に至るまでには、多くの皆さんの汗と知恵を結集した取り組みがあり、組合員・役員・職員、そして系統連合会ならびに関係機関・団体等に対し、あらためて心より感謝と御礼を申し上げます。

このたび、10周年の節目から今日まで歩んできた歴史を正確に後世へ伝えるため、記念事業の一環として20周年記念誌を発刊いたしました。

現在、農業・JAを取り巻く情勢においては、先行き不透明感が増大する変化の中にあり、ロシアによるウクライナ侵攻以来、食料・資源のサプライチェーンに不安が生じており、急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりもあいまって、農業経営に甚大な影響が出てきております。

また、国際貿易交渉については、TPP11の発効をはじめ貿易の自由化が進展しており、環境問題等への世界的な関心が高まる中で、生産者の不安を払拭し若い農業者が希望を持ち続けられるような地域農業の確立と農業所得の向上へとつながるよう、その動向を注視していくとともに、国民の生活に影響がでないよう、農畜産物を無駄にしない毅然とした対応を求めていく必要があります。

農業は、食料の生産という国民生活に欠かすことができない極めて重要な役割を担っております。国としても先を見据えた中で食料自給率の確保等による食料の安全保障体制の確立を目指しているところです。

JAの使命は、組合員が生産した安全・安心で良品質な農畜産物を消費者へ安定供給しながら、地域社会にも貢献し、持続的に社会的責任を果たしていくことにあります。組合員の営農と生活を守ることこそ、第一義にあることは申し上げるまでもありませんが、そのためには、JA経営の健全化と持続可能な組織基盤を確立していくことが、今後ますます重要となってまいります。

今日にいたるまでの間、当JAにおいては、経営資源の選択と集中による効率的・効果的な事業運営と組合員所得の安定・向上を目指し、平成21年にセンター方式と出向く体制による新たな業務体制がスタートしました。

JAきたみらいとしては大きな転換期となりますが、その後、協同の成果の発揮を持続的に取り組むことで農畜産物販売取扱高は

367億円から510億円と大幅に増加、農業所得も大幅に増大し、これまでの取組みを「更なる合併メリットの追求」と「組合員所得の向上」に結び付けることができました。

昨今、世界の人口は80億人に達し、2050年には97億人に増加すると言われております。しかしながら、地域によって増加率に大きな差があり、我が国においては1億2千万人あった総人口が2050年には9,515万人まで減少し、今後は高齢化の進行と生産年齢人口のさらなる減少が予測されており、地域における人口減少や農業・物流分野等における労働力不足が深刻な課題となっております。

合併当初、1,500戸を超えた組合員戸数も、現在では900戸を下回り、設立当初からみるとかなり減少しております。一方、販売取扱高は500億円を超え、個々の経営規模が拡大してきております。農業・JAの役割は益々大きくなってきており、将来を見据えた対応策が今後は重要な位置付けとなっております。

この10年間に於いて、当地域ではかつて経験したことのない「28.8大雨災害」をはじめ、新型コロナウイルスという100年に一度とも言われる全世界的な新興感染症をも経験することになりました。

一方では、玉葱振興会が第60回農林水産祭において最高位の天皇杯を受賞するなど、振興会が相互扶助の精神をもって結束し、安全・安心で高品質な「きたみらいブランド」を確立することで地域社会の発展に貢献してきたことが高く評価されたところで

あります。

このような激動の時代を経た20年という節目を機に、あらためて組合員の皆様とJAとが一体となった地域農業振興への取り組みが重要であると認識を深めたところであり、「組合員のため、組合員による、組合員とともに」という理念のもと「組合員の営農と生活を守る」ということを念頭に置きながら、「食と農」に対して消費者・地域住民の皆さまから広く応援していただけるよう、経営資源と機能の総力を結集し、組合員と共に役職員一丸となって農業・JAの多面的機能発揮に取り組んでまいり所存でありますので、組合員はもとより関係者各位、関係諸団体の皆さまには、今後とも特段のご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、ご多忙の中、玉稿をお寄せいただきました関係諸団体の皆さま、並びに編集・発刊に携わっていただきました皆さまへ心から敬意と御礼を申し上げますとともに、これまでの20年の歴史に加えて未来に向け躍進することをお誓い申し上げ、記念誌発刊にあたってのご挨拶といたします。

設立20周年に寄せて



北海道農業協同組合中央会
代表理事会長 樽井 功

このたび、きたみらい農業協同組合が設立20周年を迎えられ、その歩みを記された記念誌が発刊されますことに対し、心よりお祝い申し上げます。

貴組合におかれましては、オホーツク管内の8JA（温根湯・留辺蘂・置戸・訓子府・相内・上常呂・北見・端野）が平成15年2月1日に大同団結し設立され、今日の本道を代表するJAを築かれるまでの組合員並びに役職員の皆さま方の並々ならぬご尽力に対し、心より深く敬意を表します。

また、現在は第5次地域農業振興方策並びに中期経営計画で掲げる『「集えひとつに!!」心と地域の豊かさを求めて』というスローガンを掲げ、その着実な実践に向け取り組んでいるところですが、令和3年度には合併後の継続的な成果が認められ、全国農業協同組合中央会の特別優良農業協同組合表彰を受賞されましたことに、改めて心よりお祝い申し上げます。

20周年の歩みの中でも、現在は今までに経験したことがない程、農業を取り巻く環境が非常に厳しい状況であると思います。

新型コロナウイルスの位置付けは本年5月より

5類に移行し、コロナ禍以前の日常を取り戻しつつありますが、各農畜産物の消費は依然として低迷しており、さらに、国際紛争や急激な円安の進行による飼料・肥料をはじめとした生産資材の高止まりが、農業経営に与える影響は甚大なものとなっています。

コロナ禍、国際紛争によって、世界の食料需給事情が一変しました。輸出制限を行い、自国の食料を確保する各国の動きが活発化し、世界的な人口増加による食料不足問題など食料争奪合戦がすでに始まっています。我が国の食料を安定的にどう確保するのか。今こそ大いに食料安全保障の国民的議論が必要となっています。

JAグループ北海道は、日本の食料基地であるという使命感に立ち、食料の安定生産・安定供給と農畜産物の需要拡大を両輪として引き続き取り組むことが重要であり、国民の命の源である食を守り続けるにも、まさに新しい農業を築き、未来の世代へ繋いでいかなければなりません。

そのような中、令和3年には第30回のJA北海道大会を開催し、「北海道550万人と共に創る『力強い農業』と『豊かな魅力ある地域社会』の達成」という将来ビジョンが決議されましたが、コロナ禍やデジタル化への対応、SDGsへの貢献、信用・共済事業をはじめとしたJA経営を取り巻く事業環境への対応など、JAグループ北海道を取り巻く環境が急激に変化しております。

このような環境に適応していくには、組合員・役職員の皆様方が一丸となって邁進されることが重要であり、より一層、発展・飛躍をされますことを心よりご祈念申し上げ、記念誌発刊に寄せるお祝いの言葉と致します。

JAきたみらい20周年を祝して



北海道オホーツク総合振興局 局長 中島 和彦

JAきたみらいの誕生20周年を心からお慶び申し上げます。

平成15年2月、1市4町の8農協が広域合併し、オホーツク管内で最大規模のJAとして「きたみらい農業協同組合」が発足し、組合員の経営安定と生活向上を図るため、安全・安心で良質な農畜産物の安定生産、担い手の育成・確保、農業農村整備の推進など、農業者が夢の持てる持続可能な農業・農村の実現に取り組まれ、多様な農畜産物が生産される中、特に、たまねぎは、全国一の生産量を誇る産地としてその地位を確立するなど、農業振興と地域経済の発展に大きく貢献いただいております、心から感謝申し上げます。

貴JAの20年を顧みますと、多様な農産物から生まれた加工食品「きたみらいブランド」や、環境に配慮した独自の栽培基準による「ECOみらいブランド」などの地域ブランドを確立することにより、産地の育成や農業の振興、地元産品の消費拡大にも大きく貢献いただいております。

また、農福連携や外国人技能実習生の受入れ、daywork（無料職業紹介アプリ）の活用など、

多様な人材確保の取組や、管内に先駆けて実施している女性・青年農業者の経営参画を目的とした参与制度の導入、さらには、令和元年にたまねぎ集出荷貯蔵施設を整備され、地域の玉葱振興会と一体となった事業活動を行いながら産地強化を図り、日本農業賞の大賞ならびに天皇杯を受賞されるなど、オホーツクの地域農業の発展に多大な影響を与え、その実績は高く評価されているところです。

近年、農業情勢は、コロナ禍の影響による外食需要の低迷を引き金とした、牛乳乳製品の飲用消費の減少に伴う脱脂粉乳やバターの過剰在庫、低甘味嗜好による砂糖の消費減少、米の需要減少による価格低迷に加え、頻発する自然災害、飼料や肥料等の生産資材価格の高騰、海外悪性伝染病への警戒など様々な課題に直面しているものの、JAきたみらいは、これからもオホーツク地域の要のJAとして、「農業の発展と地域経済への貢献」を旗印に、持続的に発展していくものと確信しています。

食料の安定供給や地域を支える基幹産業としての役割を果たすため、組合員をはじめ、組合長や役員等の皆様が一体となって、これからも輝かしい未来に向かってご活躍されますことをご祈念申し上げ、20周年にあたりお祝いの言葉といたします。

JAきたみらい20周年記念誌発刊にあたり



北見市

市長 辻 直孝

きたみらい農業協同組合が合併20周年を迎えるにあたり、心よりお祝いを申し上げます。

平成15年2月1日に発足以来、農業協同組合関係者の皆様には、本市の市政全般にわたり特段のご理解とご協力並びに、基幹産業であります農業の振興に多大なるご尽力を賜っておりますことに、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、本市の農業は、稲作や麦類、馬鈴しょ、てん菜、豆類などの畑作と、玉ねぎを中心とした野菜などの園芸作物の生産に加え、酪農、肉用牛、養豚などの畜産を含め、多様な経営が行われております。

また、本市で生産される玉ねぎは、作付面積・生産量ともに国内1位を誇り、平成30年に竣工されました玉ねぎ集出荷施設は、更なる品質の向上と出荷期間の延長を可能とし、より安定的な集出荷体制が確立されたところであります。

その中において、その歴史と生産技術の高さ等から、令和2年度に第50回日本農業賞集団組織の部において大賞受賞、令和3年度に第60回農林水産祭園芸部門において最高賞である天皇杯受賞の栄誉に輝きました。

これも偏に、貴組合のたゆまぬ生産技術の研

鑽はもとより国内外のへ販路拡大等をはじめとした努力の賜物であり、貴組合員、役職員皆様のご努力に対し、敬意を表する次第であります。

近年は、国際情勢の影響による農業資材、燃油価格の高騰、一昨年本地域で発生した高温少雨による干ばつ、更に、近年多発している降雹や集中豪雨など、不安定かつ厳しい環境に直面しているところでありますが、一方で、新型コロナウイルス感染症が5類感染症へ移行したことによる各方面の制限緩和により、観光業や飲食業も徐々に賑わいを取り戻しております。

本市では、「持続的に発展する農業の振興」の実現に向けて、「第4次北見市農業振興計画」に基づき、未来へつながる力強い農業を目指し、持続可能な安定した農業経営を継続できるよう、引き続き貴組合のご協力を賜りながら、共に実現を目指してまいりたいと考えております。

結びになりますが、貴組合におかれましては、全道はもとより国内外の多くの消費者の方々へ、安全で安心な農畜産物を今後もお提供されますことを期待いたしますとともに、この合併20周年を機に組合長をはじめ組合関係者の皆様方が一層絆を深め、より強い結束を備えた、きたみらい農業協同組合の益々のご発展とご健勝を心からご祈念申し上げ、お祝いのことばに代えさせていただきます。

合併20周年、誠におめでとうございます。

きたみらい農業協同組合合併20周年を祝して



訓子府町

町 長 伊田 彰

きたみらい農業協同組合が合併20周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げます。

1市4町の8農協が広域合併し「JAきたみらい」が発足され、組合長をはじめ組合員、役職員の皆様の努力により成功を収めてこられましたことに、心より敬意を表しますとともに、本町農業の振興・発展にご貢献いただいていることに対し、厚くお礼申し上げます。

現在農業分野では、持続可能な食料システムを構築するため「みどりの食料システム戦略」を国が推進しており、2050年までに目指す姿として農林水産業のゼロエミッション化の実現や化学農薬・化学肥料の使用量の低減などの環境負荷軽減の取り組みが求められているところですが、貴農協ではECOみらいブランドに取り組み環境と調和のとれた安心・安全なタマネギ、ジャガイモ作りを既に展開しており、スマート農業などのデジタル分野を活用した省力化技術の普及に力を入れていくなど、農業の将来を見据えながら積極的に進めてこられましたこと、貴農協及び組合員の皆さまのご努力に対し、敬意を表する次第であります。

近年は、地球温暖化の影響による異常気象が

全国的に頻発しており、本町においても過去に例を見ない集中豪雨等により降雹・冠水や流亡、農地の崩壊など農業基盤に大きな被害を受けましたが、気象災害の激甚化に対応していけるよう、貴農協と共に農業基盤整備を推進し災害に強い農業を目指してまいりたいと考えております。

ウクライナ侵攻などの国際情勢の影響により、肥料などの生産資材が高騰し、農業経営に大きな影響をもたらしております。中でも酪農畜産情勢は、生乳生産抑制、飼料価格の高騰、個体販売の下落により危機的な状況となっております。この農業情勢の厳しさは依然として先が不透明であり、組合員、農協、行政がともに手を携え、この難局を乗り越えていかなければなりません。

また、農業者の高齢化が進み、合併当初から組合員数も大幅に減少している中、後継者をいかに確保するか、さらなる生産性の向上、環境との調和、農地の集積等多くの課題がある中で、私ども行政としまでも地域に根付いた支援施策を念頭に置き、貴農協と連携しながら関係者一丸となって、次の世代へ引き継げる農業を築いていかなければなりません。

最後になりましたが、貴農協の益々のご発展と組合員の皆様のご健勝を祈念いたしましてお祝いの挨拶とさせていただきます。

「みらいに向けて」



置戸町

町 長 深川 正美

「きたみらい農業協同組合」が誕生し、20周年を迎えられましたことに組合員の皆様、並びに大坪代表理事組合長をはじめ役職員、関係者の皆様に心からお祝いを申し上げます。

また、日頃より本町の基幹産業であります農業の発展や地域振興に貢献いただいていますことに深く感謝申し上げます。

それぞれの歴史を持った8農協が英断をもって合併された以降、各地域の特色ある農業を継承しながらスケールメリットを生かした生産や販売展開がなされるとともに、各農業経営体の規模拡大や法人化、コントラの導入やスマート農業の推進、さらには各農産物集出荷貯蔵施設の拡大や哺育育成センターの設立など積極的な投資が行われ、経営の合理化や近代化により農業所得が飛躍的に向上した20年でありました。

令和3年には、玉葱振興会が天皇杯を受賞されるなど、名実ともに日本一の産地として「JAきたみらい」の名を全国にとどろかせ、いまや農畜産物取扱高においては北海道No.1、全国屈指のJAとなりました。先人から続く農業者の皆様の長年のご苦勞、そして歴代役職員の卓越した経営手腕に深甚なる敬意を表する次第です。

近年は国際紛争や異常気象による資材高騰、生乳やてん菜などの生産抑制、農業者の高齢化や労働力不足、多発する気象災害や野生鳥獣被害の増加と様々な課題に直面しております。世界規模では人口増加による食糧危機が目前に迫る一方、国内では人口減少社会の到来により地域の衰退が懸念されるなど、一国では解決できない課題が山積しております。

本町におきましても、この自然環境や持続的な社会形成に向けて「ゼロカーボンシティ宣言」を行い、農業を含め様々な分野での実行計画づくりに着手いたしました。また、政府では食糧安保や農産物の適正価格形成を目指し「食料・農業・農村基本法」の改正議論が進められております。

JAきたみらいが未来に向かって「組合員とともに、組合員による、組合員のための」を実践し、我が国の食と農業そして環境を守り、地域経済や社会を維持発展するために、さらなる躍進を心よりご祈念申し上げ、記念誌発刊にあたってのお祝いの言葉といたします。



20th Anniversary



組合の概要



組合の概要

(令和5年1月31日現在)

名 称	きたみらい農業協同組合
設 立	平成15年2月1日
組 合 員	正組合員 1,591名 正組合員戸数 877戸 准組合員 5,764名
地 区	北見市(常呂自治区域を除く) 訓子府町・置戸町
職 員	正職員 272名 準職員 122名

注記：準職員については、従業員就業規則の嘱託職員・長期従業員・臨時従業員とし、期間従業員・パートタイマー・アルバイトを除く。

主な事業の概要

(単位：千円)

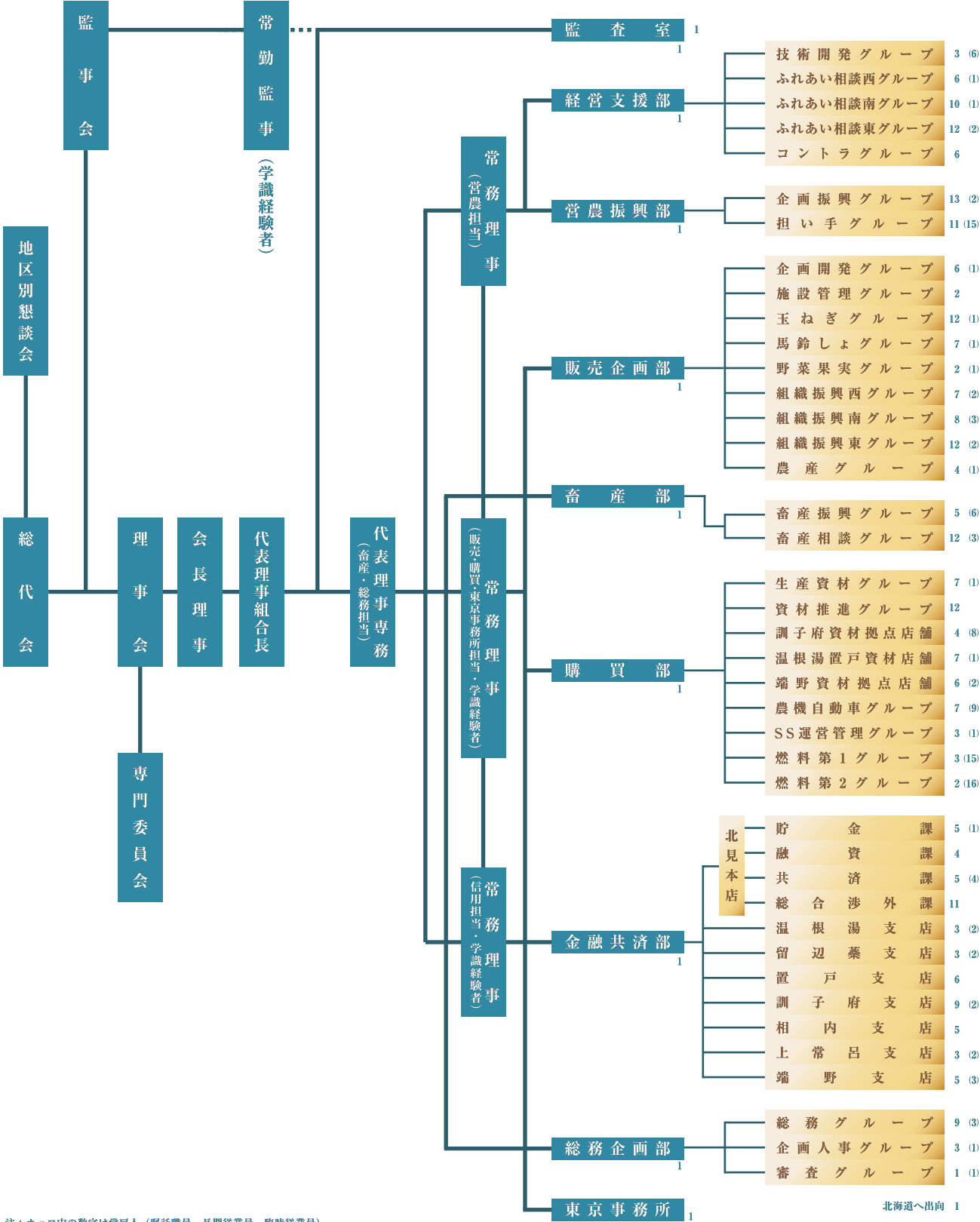
出 資 金	4,927,510
貯 金 残 高	120,951,530
貸 出 金 残 高	13,107,875
長期共済保有高	187,864,826
販 売 取 扱 高	51,008,023
購 買 取 扱 高	20,364,643

組合組織

青 年 部	196名	玉 葱 振 興 会 青 年 部	146名
女 性 部	175名	赤 玉 葱 振 興 会	117名
フ レ ッ シ ュ ミ ズ	45名	酪 農 振 興 協 議 会	121名
も ち 米 振 興 会	100名	酪 農 青 年 部	58名
麦 作 振 興 会	556名	黒 毛 和 牛 振 興 会	20名
て ん 菜 振 興 会	471名	馬 産 振 興 会	9名
豆 類 振 興 会	285名	酪農ヘルパ-利用組合連絡協議会	119名
種 子 馬 鈴 薯 生 産 組 合	50名	乳牛検定組合連絡協議会	116名
馬 鈴 薯 振 興 会	253名	ジュニアホルスタインクラブ	24名
玉 葱 振 興 会	427名		

注記：各組合員組織の部員数及び会員数は、通常総代会資料から記しています。

令和5年4月1日
(単位：人)



注：カッコ内の数字は常雇人（嘱託職員、長期従業員、臨時従業員）

現役員・参与



会長理事
西川 孝範



代表理事組合長
大坪 広則



代表理事専務
齊藤 和雄



常務理事
宮下 尚樹



常務理事(学経)
高橋 優



常務理事(学経)
越田 喜裕

▶ 理事



林 政則



小野 洋一



寺崎 博



伊藤 稔



齊藤 博行



澤山 一之



小野 俊浩



溝井 雅幸

理事



山内 幹司



伊藤 正一



平田 康弘



堺 信幸



穴田 惣一



飯田 紀

監事



代表監事
南 博敏



常勤監事 (学経・員外)
鹿野 信男



土山 清隆



大邑 和治



(学経・公認会計士)
北村 好孝

参与



米森 弘



岩本 直樹



山崎 ゆかり



沼崎 佳代

歴代会長・常勤役員・代表監事・参事

会長理事



初代 (故) 長尾 誠一

在任期間 平成15年2月1日～
平成16年4月21日



第2代 (故) 加藤 孝幸

在任期間 平成20年6月27日～
平成25年4月11日

代表理事組合長



初代 (故) 高橋 俊一

在任期間 平成15年2月1日～
平成19年4月12日



第2代 (故) 加藤 孝幸

在任期間 平成19年4月13日～
平成20年6月27日



第3代 西川 孝範

在任期間 平成20年6月27日～
令和2年6月23日

代表理事専務



初代 (故) 加藤 孝幸

在任期間 平成15年2月1日～
平成19年4月13日



第2代 西川 孝範

在任期間 平成19年4月13日～
平成20年6月27日



第3代 西森 信夫

在任期間 平成20年6月27日～
平成21年2月25日



第4代 坂下 一夫

在任期間 平成21年2月25日～
平成28年4月12日



第5代 大坪 広則

在任期間 平成28年4月13日～
令和2年6月23日

常務理事



初代 木暮 健一

在任期間 平成15年2月1日～
平成16年4月21日



第2代 寺崎 義一

在任期間 平成16年4月22日～
平成19年4月12日



第3代 西森 信夫

在任期間 平成19年4月13日～
平成20年6月27日

常務理事



第4代 坂下 一夫
在任期間 平成20年6月27日～
平成21年2月25日



第5代 大坪 広則
在任期間 平成21年2月25日～
平成28年4月12日



第6代 齊藤 和雄
在任期間 平成28年4月13日～
令和2年6月23日



初代(学経) 佐藤 幸光
在任期間 平成15年2月1日～
平成22年4月15日



第2代(学経) 山本 寛身
在任期間 平成22年4月15日～
平成25年4月11日



第3代(学経) 佐藤 浩
在任期間 平成25年4月22日～
平成31年4月10日

代表監事



初代(故) 齊藤 誠司郎
在任期間 平成15年2月1日～
平成19年4月12日



第2代 福田 節幸
在任期間 平成19年4月13日～
平成25年4月11日



第3代 林 政則
在任期間 平成25年4月12日～
平成28年4月12日



第4代 和田 恭明
在任期間 平成28年4月13日～
平成31年4月10日

常勤監事



初代(学経) 加藤 國昭
在任期間 平成15年2月1日～
平成19年4月12日



第2代(学経・員外) 尾崎 和憲
在任期間 平成19年4月13日～
平成22年4月15日



第3代(学経・員外) 菅崎 秀弘
在任期間 平成22年4月16日～
平成28年4月12日



第4代(学経・員外) 宇野 広勝
在任期間 平成28年4月13日～
令和4年4月12日

参事



初代 柴田 憲
在任期間 平成15年2月1日～
平成18年6月10日



初代 作田 忠一
在任期間 平成15年2月1日～
平成18年4月30日

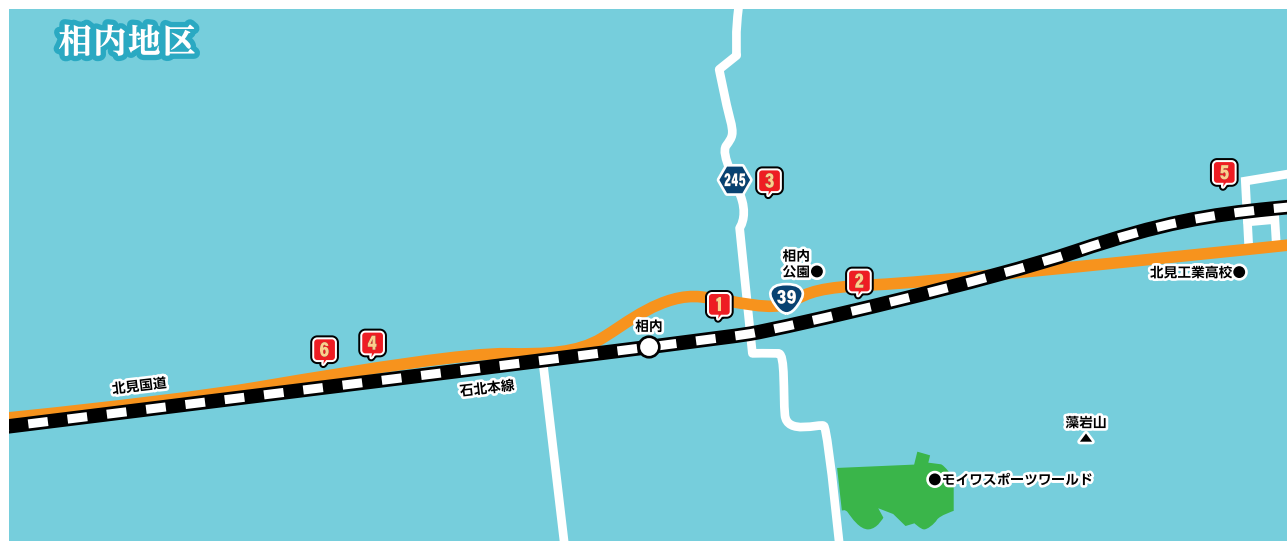


第2代 森下 直治
在任期間 平成18年6月10日～
平成21年4月1日



第2代 佐藤 浩
在任期間 平成18年6月10日～
平成25年4月11日

西地域（温根湯地区・留辺蘂地区・相内地区）



温根湯地区



① 温根湯地区事務所



② 温根湯資材店舗



③ 温根湯給油所



④ 温根湯豆類調製施設

留辺蘂地区



① 留辺蘂地区事務所

相内地区



① 相内地区事務所



② 相内給油所



③ 広域米麦乾燥貯蔵施設



④ 西相内麦乾燥調製施設



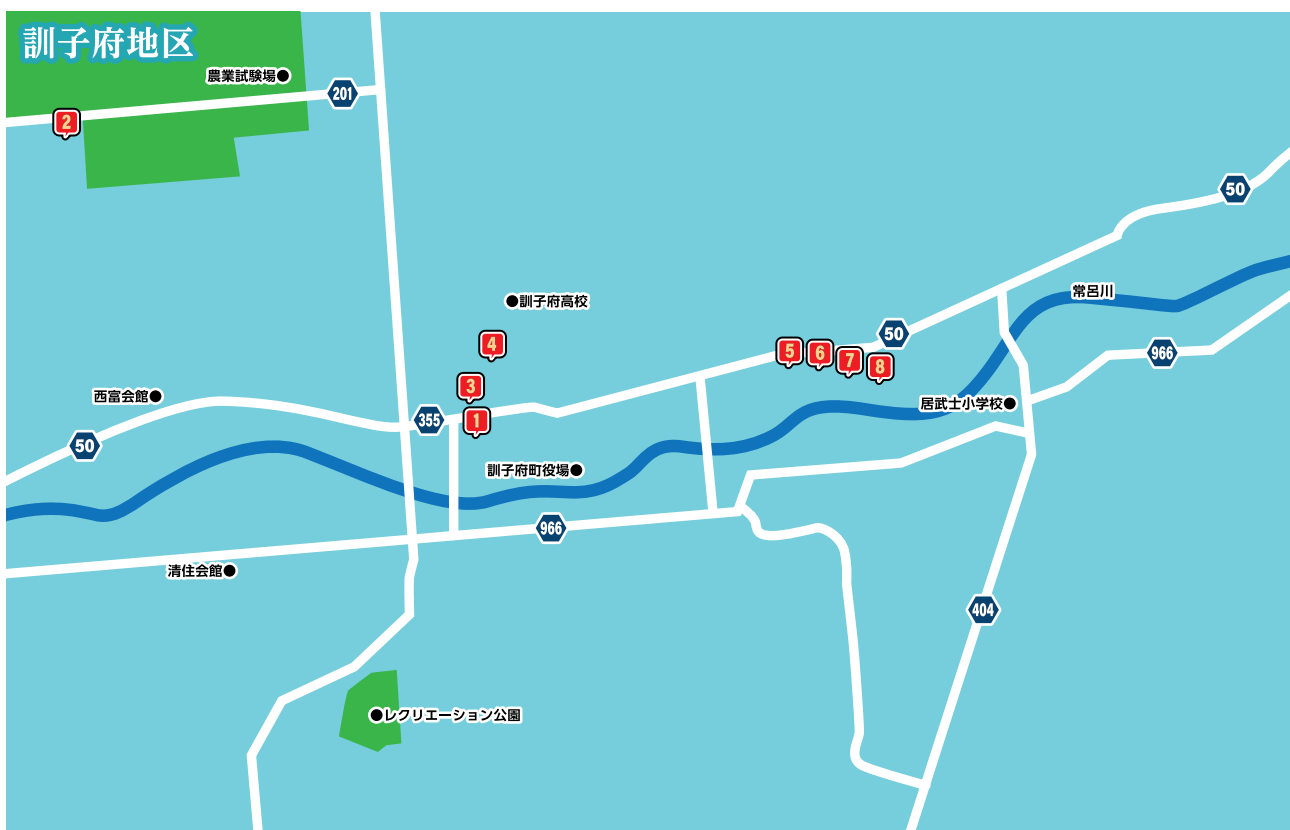
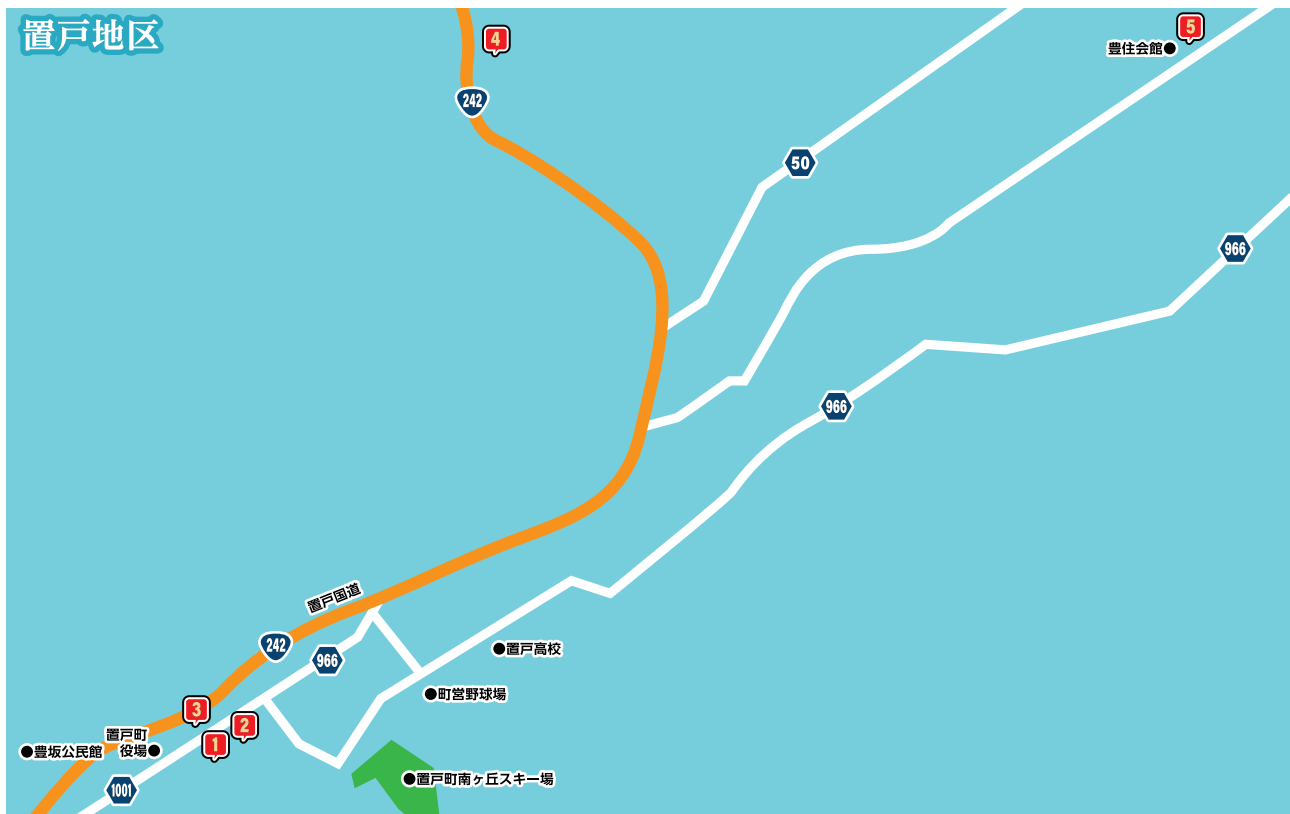
⑤ 青果物センター馬鈴薯選果場



⑥ 相内玉ねぎ集出荷施設

JAの主な施設

▶ 南地域（置戸地区・訓子府地区）



置戸地区



①置戸地区事務所



②置戸資材店舗



③置戸給油所



④置戸堆肥センター



⑤置戸馬鈴しょ粗選別施設

訓子府地区



①訓子府地区事務所



②訓子府資材拠点店舗



③訓子府給油所



④訓子府整備工場事務所



⑤訓子府玉ねぎ選果場



⑥訓子府玉ねぎむき玉選別加工施設



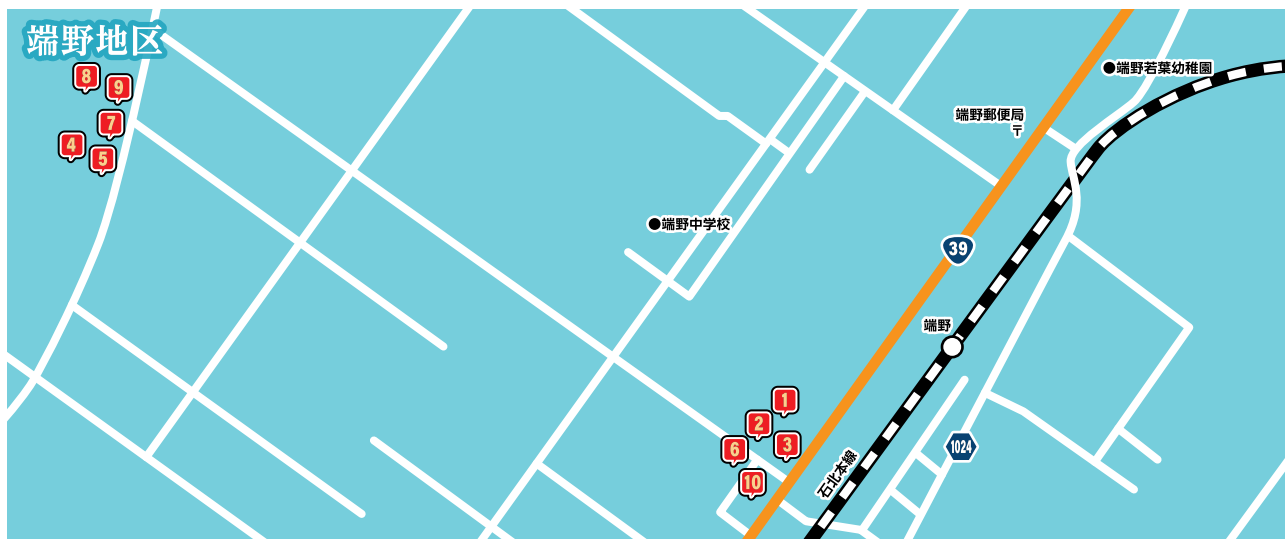
⑦訓子府馬鈴しょ選果場



⑧訓子府麦乾燥調製施設

JAの主な施設

東地域（上常呂地区・北見地区・端野地区）



▶ 上常呂地区



① 上常呂地区事務所



② 農業技術センター



③ 上常呂玉ねぎ選果場

▶ 北見地区



① センター(北見地区)事務所



② ホクレン中ノ島SS



③ 北見玉ねぎ選果施設

▶ 端野地区



① 端野地区事務所



② 端野資材拠点店舗



③ 端野給油所



④ 端野玉ねぎ選果場



⑤ 端野茎葉処理施設



⑥ 端野農業機械修理研修センター



⑦ 端野馬鈴しょ選別場



⑧ 端野麦乾燥調整貯蔵施設



⑨ 端野むき玉加工施設



⑩ 端野馬鈴しょ粗選別施設

JAきたみらいの加工商品

平成15年2月にJAきたみらいが設立以来、農畜産物の付加価値を高める加工商品の開発に取り組み、現在15商品が数多くの消費者に好評を得て販売されています。



curry

レトルトカレー



玉ねぎと牛すじのカレー

JAきたみらいの玉ねぎと牛すじ肉のうま味と甘みがルーに溶け込み絶妙な味わい。



玉ねぎとチーズが溶け込んだポークカレー

JAきたみらいの玉ねぎと、柔らかな北海道産ポークの相性抜群！チーズがルーにしっかり溶け込んでおり、上品な味わい。



玉ねぎと鶏もも肉の黒カレー

じっくり炒めたJAきたみらいの玉ねぎの「コク」と「旨味」が濃厚なデミグラスソース入りのルーに溶け込んでいて、洋食屋のルーのようなスパイシーな黒カレー。

seasoning

調味料
(和風)



玉ねぎ焼肉のたれ

焼肉の街北見より、醤油ベースに炒め玉ねぎを加えた焼肉のたれです。JAきたみらいの玉ねぎを使用し、火を加えることで旨味とコクを引き出しました。



玉ねぎ醤油

炒める事で風味と旨味を増した、JAきたみらいの玉ねぎを、醤油に加えました。簡単にご利用いただけます。アイディア次第でメニューは無限大。



玉ねぎポン酢

JAきたみらいの玉ねぎを特殊な方法で炒め、旨味を最大限引き出し、玉ねぎとゆずの風味が合わさり、絶妙な仕上がりになりました。

seasoning

調味料
(ドレッシング)



白花豆シーザードレッシング

食物繊維が多く含まれると言われる北海道産「白花豆」のほのかな甘みと、国産大豆を使用した豆乳と道産プロセスチーズの濃厚でクリーミーな味わい。



玉ねぎうま塩

JAきたみらいの玉ねぎを炒め、より一層玉ねぎの旨味が引き立ち、ブラックペッパーと混ぜり合い、絶妙な風味を醸し出します。



玉ねぎ黒酢入りドレッシング

シャキシャキとしたJAきたみらいのざく切り玉ねぎがたっぷり入り、黒酢のまろやかで芳醇な香りを活かして仕上げたドレッシング。

sweets
菓子



玉ねぎせんべい

せんべいを加熱し
JAきたみらいの玉ねぎの
旨味と香りが凝縮されています。



白花美人 甘納豆

北海道産「白花豆」を原材料として、
自然の風味を活かし、
甘さを抑えてふっくら仕上げた
大粒の白花豆甘納豆です。

noodles
麺類



麦まるごとうどん

麦まるごとうどんは全粒粉を加えたことで、
見た目は薄茶色していますが、
特に冷麺で召し上がっていただく
小麦自体の風味を味わうことができる乾麺うどんです。

croquette
冷凍コロッケ



白花豆コロッケ

北海道産白花豆のペーストを使用した、
クリーミーなコロッケを作りました。
じゃがいもを一切使用していません。
一味違った食感と風味をお楽しみ下さい。

給食のコロッケ

使用している原材料の全てが
JAきたみらい及び北海道産と
素材にこだわったコロッケです。
製造には添加物を使用せず、
お子様も安心して食べられます。

給食のコロッケ カレー味

JAきたみらい男爵いもホクホクとした食感や風味、
本来の甘さを活かすため皮付きの芋を程よくつぶし、
カレーベースとオリーブオイルの塩のみで味付けしました。

第1章 JAきたみらい誕生

JAきたみらい誕生の経緯



調印式を終えて、新JAの発展を誓い合う8JAの組合長
(平成14年10月17日)

「常呂ブロック農協経営研究会」の発足

平成8年8月、常呂ブロック8JAの組合長会（温根湯・留辺蘂・置戸町・訓子府町・相内・上常呂・北見市・端野町）は、「常呂ブロック農協経営研究会」を発足させた。

「これからの農業や農協を考えると、合併議論を前向きに行うことは避けて通れない」との認識から出発したものであり、常呂ブロック大同団結に向けての事実上のスタートであった。

同研究会は、最初から“合併ありき”ではなく、8JAが共通の土俵の上で、広域的農業を発展させるための合併議論を進めることについて、組合員の理解を得ることを中心の目的とし

た。そのため同研究会は、「21世紀に向けてのブロック農業の新たな挑戦」、「常呂ブロックJAの経営環境は今、このように変化しています」、「21世紀に向けた後世のためのJAづくりを考えませんか」などの資料を作成し、各JAの理事会、地区別懇談会などを通じて組織的検討を重ね、組合員の理解を深めて行った。こうして同研究会は、平成11年5月に発展的解消し、「常呂ブロック農協合併検討委員会」にバトンを渡した。

JAきたみらい誕生の経緯

「常呂ブロック農協合併検討委員会」への移行

検討委員会は8JAの組合長で構成され、委員長にJA訓子府町の高橋俊一組合長を選出し、各JA参事・部長等で組織する幹事会を設置、新JAの骨格となる「常呂ブロック農協合併基本構想案」、「21世紀に向けブロック農業の更なる発展のため広域JAづくりをめざしませんか」の討議資料の作成に取り組んだ。翌年、これら組合員向けの討議資料がまとめられ、各JAであらためて組織討議が進められた。討議資料の目的と基本姿勢は次の通りであった。

＜広域合併の目的＞

農業・農協を取り巻く環境変化のもとで、合併によりJA組織基盤の強化を図ることで、JAの基本理念である「組合員による組合員のための協同活動」の再構築を図り、組合員と地域への役割を果たす。

＜広域JAの基本姿勢＞

1) 管内の中でも恵まれた環境を生かして、地域農業の持続的発展に向けて取り組み、組合員の経営と生活の向上に寄与する。

2) これまで各JAが築いてきた産地をより発展させる中から、管内はもとより北海道を代表する総合食糧供給産地として役割を果たす。

3) 農業がもつ多面的機能とJAのそれ

ぞれの事業を通して、北見地域の社会・経済へ貢献し、住民の期待に応える。また広域合併は、組織基盤の拡大強化によりスケールメリットを発揮することが狙いとの認識から、それぞれの事業の目標を定めて検討を進める。

平成13年度において検討委員会は、8JAの合併を想定して、調整・整理を必要とする課題についての検討作業に着手し、同年11月、「新JA合併計画書」原案を作成し、これを踏まえてさらに組織討議を深めていった。「新JA合併計画書（案）」は、先の「基本姿勢」、「事業目標」に沿って、さらに具体的な方向付けを行った。

その内容は、次の通りであった。

- 1) 合併の方法、日程、設立体制
- 2) 新JA組織の基本となる定款の骨格（名称、事業所所在地、地区、組合員資格、事業、総会などの決定機関、役員体制等）
- 3) 事業毎の基本方針及び料金・料率設定基準
- 4) 組合員組織再編の方向（青年部、女性部、フレッシュミズ、各生産組織等）
- 5) 経営管理組織と職員体制
- 6) 合併に伴う引継ぎ財務基準（債権・債務、各種資産、諸引当金等）
- 7) 行政等との連携方策他

「常呂ブロック農協合併推進委員会」の設立

組織検討・議論が深まるなか、平成14年4月24日、北見農業会館において、「常呂ブロック農協合併推進委員会」の設立会が開催された。これより先、常呂ブロック各JAは、平成13年事業年度の通常総会において、合併推進委員会への移行を承認していた。これを踏まえて検討委員会は、「常呂ブロック農協合併拡大検討委員会」を開き、引き続き「常呂ブロック農協合併推進委員会設立会」を行ったものである。

推進委員会の設立会では、規約、正副委員長選出、合併推進基本日程、収支予算、推進室設置の5議案が審議され、委員長にJA訓子府町の高橋俊一組合長、副委員長にJA温根湯の長尾誠一組合長が就任し、平成15年2月1日をもって、新しいJAを立ち上げることを決め、各JAにおいて10月29日に一斉に合併承認のための臨時総会を開催、設立委員会の設置、合併実行日に向けての諸準備を進めるとした。

平成14年7月にいたって推進委員会は、新しいJAが取り組む地域農業振興方策と経営計画書の骨格となる考え方を組合員検討資料として作成。8JAで一斉に地区別懇談会等を開催し、組合員への説明に努め、組合員の理解を深めた。

新JAの組織運営体制については、中枢機能を担う本所を、管内の経済の中心地である北見市に置くとし、事務所は北

見広域連のある北見農業管理センターに置き、各JAはそれぞれ支所とし、組合員の営農と生活の拠点として経営相談、貯金・共済、生産資材供給などの利用窓口としての機能を基本とした。また、合併JAの組織体制の中に地区担当理事、地区総代、女性部、青年部、生産組織などの代表をもって構成する支所運営委員会を設け、恒常的に地域の意見が、新しいJA事業に反映される体制の構築を目指すとした。

組織運営体制は、総代会制を採用し、総代の選出は地区割定員制で無投票当選制。総代定数は509名、任期は3年で、毎年4月に総代会を開催するとした。また、役員定数は理事32名、監事7名の体制が確認された。

農畜産物の販売では、消費者から求められる産地の構築を基本に、総合食料基地としてのブランド確立に取り組み、基幹品目では直ちに統一ブランド化を進め、メロン、野菜等の振興品目は、従来の地域ブランドを維持し、将来に向けて統一を図る方針であった。

この組織的協議の過程で、組合員と職員を対象にして新JAの名称の公募が行われた。その結果、新しいJAの組合員が経営と生活を営む北見盆地の輝かしい未来を祈念して、「北見（きたみ）」と「未来（みらい）」をかけ合わせた『きたみらい』に新JA名称が決定された。

JAきたみらい誕生の経緯



調印式に臨む8JAの組合長

(平成14年10月17日)

「常呂ブロック8JA合併予備契約」調印式

平成14年10月17日、北見市内のホテル黒部において、午前10時30分から8JA組合長、太田敏夫網走支庁長ら立会人が出席し、合併予備契約書の調印式が行われた。

調印後、JA北見市の加藤孝幸組合長が、「平成15年2月1日に設立されるきたみらい農業協同組合が組合員の負託に応え、地域を担うよう力強く、親しみを持っていただけるJAであるよう、今後とも努力を重ねて参ります」と決意表明をした。

予備契約書は、第4条で、「設立委員は、第10条に定める被合併組合の合併総会において、合併総会日時点での正組合員の中から次の通り選出する」と定め、10月29日の被合併組合の合併総会（第10条）を経て委員を選出し、31委員の設立委員会を発足させた。設立委員会のもとで平成15年2月1日の新JA発足に向けての準備が進められた。

■合併予備契約調印式出席JA組合長■

長尾 誠一 (温根湯)
加藤 勝美 (留辺蘂)
伊東 勇 (置戸町)
高橋 俊一 (訓子府町)
中山外亀雄 (相内)
合田 孝一 (上常呂)
加藤 孝幸 (北見市)
木暮 健一 (端野町)

※敬称略

■合併予備契約調印式立会人■

太田 敏夫 (網走支庁長)
神田 孝次 (北見市長)
深見 定雄 (訓子府町長)
田中 誠 (端野町長)
南川健次郎 (留辺蘂町長)
井上 久男 (置戸町長)
南 巧三 (道中央会北見支所長)

※敬称略

第2章 20年のあゆみ



20年のあゆみ

2003年【平成15年】

2月1日	「JAきたみらい」発足式・本所開所式
2月24日	JAきたみらい青年部連絡協議会設立総会 JAきたみらいフレッシュミズ連絡協議会設立総会
2月27日	JAきたみらい女性部連絡協議会設立総会
3月17日	日本の食を守るオール北海道大会
3月25日	JAきたみらい営農技術協議会設立総会
6月1日	JAきたみらいホームページ開設
7月10日	夏期地区別懇談会（10～17日まで）
7月12日	JAきたみらい合併記念酪農祭・乳牛共進会
7月18日	総代選挙509人選出
8月13日	きたみらい酪農ヘルパー連絡協議会設立総会
8月26日	全国たまねぎサミット IN KITAMI2003（26～27日）
11月25日	第24回JA北海道大会



本所事務所 開所式&発足式（2003年2月1日）



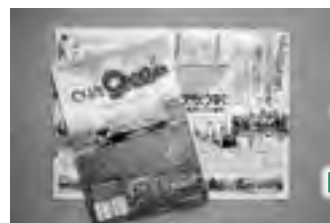
「日本の食を守るオール北海道大会」参加
（2003年3月17日）

2004年【平成16年】

2月12日	JAきたみらいフレッシュミズ設立総会
2月19日	JAきたみらい青年部設立総会
3月3日	JAきたみらい女性部設立総会
3月7日	「おひさまサラダ」第30回全道JA広報誌 コンクール最優秀賞受賞
3月18日	冬期地区別懇談会（18～24日まで）
4月2日	きたみらい和牛生産組織協議会設立総会
4月16日	きたみらい馬産振興会設立総会
4月21日	第1回JAきたみらい通常総代会 （新役員就任）
5月1日	地域住民向けコミュニティー紙 「ぐりんGreen」創刊号発刊
6月16日	きたみらいジュニアホルスタインクラブ設立総会
7月9日	新規就農者激励状授与式・激励会（29人就農）
7月17日	第2回JAきたみらい乳牛共進会
7月17日	夏期地区別懇談会（17～22日まで）
10月2日	きたみらい豆類乾燥調製施設竣工式
10月5日	北見地区農産物検査センター竣工式
12月22日	第1回臨時総代会



新規就農者29人に激励状授与（2004年7月9日）



"地域コミュニティー誌
おひさまサラダ
「ぐりんGreen」創刊"
（2004年5月1日）



東京・銀座で
きたみらい産農産物をPR



2005年 [平成17年]

2月14日	冬期地区別懇談会 (14～17日まで)
4月20日	第2回JAきたみらい通常総代会
7月1日	新規就農者激励授与式・激励会 (26人就農)
7月16日	第3回JAきたみらい乳牛共進会
7月19日	夏期地区別懇談会 (19～22日まで)
10月3日	新土壌改良工法試験施工 (北見市柏木)
11月3日	全日本ホルスタイン共進会、 出陳3頭上位入賞 (3～6日まで)

2006年 [平成18年]

2月14日	冬期地区別懇談会 (14～17日まで)
2月29日	品目横断的施策緊急対応プロジェクトチーム設置
3月5日	北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町の1市3町が 合併し、新「北見市」誕生
4月18日	第3回JAきたみらい通常総代会
4月20日	ふるさと銀河線廃線
6月27日	新規就農者激励状授与式・激励会 (31人就農)
7月1日	小麦乾燥調製貯蔵施設工事安全祈願祭
7月15日	第4回JAきたみらい乳牛共進会
7月18日	夏期地区別懇談会 (18～21日まで)
8月26日	合併3周年記念「じゃが・たまフォーラム」
8月27日	合併3周年記念「ふれあい農業祭」
11月21日	第25回JA北海道大会
12月2日	役員海外視察研修 (2～9日まで)

2007年 [平成19年]

2月12日	冬期地区別懇談会 (12～16日まで)
3月3日	JAきたみらい小麦乾燥調製貯蔵施設修祓式・ 落成祝賀会
4月12日	第4回JAきたみらい通常総代会
4月13日	第2代代表理事組合長に加藤孝幸氏を選任
6月5日	玉葱貯蔵庫地鎮祭
6月26日	新規就農者激励状授与式・激励会 (34人就農)
7月14日	第5回JAきたみらい乳牛共進会
7月17日	夏期地区別懇談会 (17～20日まで)
8月13日	役員作況調査
10月27日	第1回農業体験&見て歩きツアー
11月1日	販売事業200億円サミット
11月10日	コンプライアンス役職員研修会
12月5日	第1回JAみらいサミット
H20.1月26日	オホーツク酪農畜産危機突破総決起集会 (北見支所大会議室)



初の「秋の大収穫祭」で
農産物PR
(2005年10月2日)



8.18大雨被害状況を調査
(2006年9月1日)



合併3周年記念ふれあい農業祭。
トラクターとの綱引きなどのイベント
(2006年8月26・27日)



小麦乾燥調製貯蔵施設が完成 (2007年3月3日)



北見市農業技術センター
JAが運営管理

20年のあゆみ

2008年 [平成20年]

- 2月8日 冬期地区別懇談会 (8～15日まで)
- 4月1日 オホーツク農業共済組合誕生
(オホーツク中央・遠軽・北見・斜里)
- 4月1日 全道系統4協同会社統合合併 (㈱ホクレン商事)
- 4月2日 JAきたみらい生産者組織連絡協議会発足
- 4月11日 第5回JAきたみらい通常総代会
- 6月27日 加藤組合長厚生連副会長・
全共連道運営委員会副会長就任
- 6月27日 第3代代表理事組合長に西川孝範氏就任
- 7月1日 新規就農者激励状授与式・激励会 (23人就農)
- 7月15日 夏期地区別懇談会 (15～22日まで)
- 7月19日 第6回JAきたみらい乳牛共進会
- 8月8日 資材高騰に対するオホーツク危機突破総決起集会
- 8月13日 役員作況調査
- 8月21日 資材高騰に対する全道総決起大会
- 9月22日 HBCテレビ「あぐり王国北海道」収録
(放映日10月11日→タマネギ～訓子府町)
- 10月4日 第2回JAみらいサミット
- 10月5日 合併5周年記念第2回ふれあい農業祭
- 12月2日 役員視察研修



全道農業危機突破総決起大会が各地で
(2008年8月21日)



「あぐり王国北海道」収録に歓声
(2008年9月22日)



平成20年全道JA広報誌コンクールで
2年連続の最優秀賞

2009年 [平成21年]

- 2月12日 冬期地区別懇談会 (12～18日まで)
- 4月16日 第6回JAきたみらい通常総代会
- 4月27日 きたみらい酪農青年部設立総会
- 7月1日 新規就農者激励状授与式・激励会 (21人就農)
- 7月13日 夏期地区別懇談会 (13～16日まで)
- 7月18日 第7回JAきたみらい乳牛共進会
- 8月16日 日米FTA断固阻止オホーツク緊急集会
- 8月20日 第3回JAみらいサミット
- 9月23日 第2回農業体験&見て歩きツアー
- 9月26日 東北6県生協と産直協定
- 10月18日 第3回農業体験&見て歩きツアー
- 10月25日 HBCテレビ「あぐり王国北海道」収録
(放映日11月14日→白花生～留辺蘂町、
ヤーコン～置戸町)
- 11月20日 第26回JA北海道大会
- 12月8日 外郭3組織合同視察研修 (8～10日まで)



JA青年部
「オーストラリア農業」を視察



日米FTA断固阻止オホーツク緊急集会
(2009年8月16日)

2010年 [平成22年]

2月12日	冬期地区別懇談会 (12～17日まで)
4月15日	第7回JAきたみらい通常総代会
7月1日	新規就農者激励状授与式・激励会 (28人就農)
7月8日	監事会視察研修 (8～9日まで)
7月12日	「畑楽(はたらく)クラブ」開講式
7月13日	夏期地区別懇談会 (13～16日まで)
7月30日	HBCテレビ「あぐり王国北海道」真白収録
8月7日	JA第1回収穫祭
10月8日	第4回JAみらいサミット
10月30日	哺育育成センター落成式
11月11日	役員道外研修(11～13日まで)
12月18日	HBCテレビ「あぐり王国北海道」 塩やきそば、グリーンズ北見、玉葱倉庫収録
H23.1月19日	オホーツクJA監事研修会 (19～20日まで)
1月23日	オホーツクJA役員研修



哺育育成センターが落成 (2010年10月30日)



東日本大震災被災地に支援物資届ける
(2011年3月26日)

2011年 [平成23年]

2月14日	冬期地区別懇談会 (14～18日まで)
4月15日	第8回JAきたみらい通常総代会
6月7日	役員道外研修 (7～9日まで)
6月30日	新規就農者激励状授与式・激励会 (23人就農)
7月4日	夏期地区別懇談会 (4～8日まで)
7月16日	第8回JAきたみらい乳牛共進会
10月30日	第6回農業体験&見て歩きツアー
11月1日	TPP交渉参加問題を考えるオホーツク集会
12月10日	HBCテレビ「あぐり王国北海道」スノーマーチ収録
12月26日	第2回臨時総代会
H24.1月18日	オホーツクJA監事研修会 (18～19日まで)
1月19日	オホーツクJA役員研修会



男女共同参画と
組織活動活性化を学ぶ
(2011年12月13日～15日)

2012年 [平成24年]

2月13日	冬期地区別懇談会 (13～17日まで)
2月26日	TPP交渉参加断固阻止！オホーツク総決起集会
4月13日	第9回JAきたみらい通常総代会
4月17日	馬鈴薯集出荷施設工事修祓式
6月29日	新規就農者激励状授与式・激励会 (27人就農)
6月30日	夏季地区別懇談会 (30～7月4日まで)
7月7日	JA役員イタリア農業視察 (7～14日まで)
7月21日	第9回JAきたみらい乳牛共進会
10月7日	第7回農業体験&見て歩きツアー
10月23日	馬鈴薯集出荷施設落成式
11月17日	HBCテレビ「あぐり王国北海道」牛の削蹄収録



TPP交渉参加阻止北海道総決起大会

TPP交渉参加表明に反対する「道民集会」と「北海道総決起大会」が札幌市で開かれ、JAきたみらいからも役職員23人が参加。

(2012年4月27日)



2年ぶりの開催
「みらいサミット」

(2012年12月6日・7日)

2013

平成25年

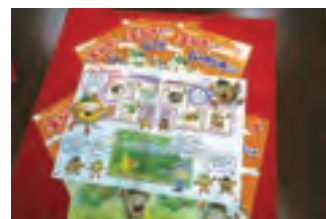
主なできごと

2月4日	1市2町へ芋玉贈呈
2月12日	冬期地区別懇談会（12～16日）
3月8日	高知JA高知市 姉妹提携
3月12日	1市2町の小学校に教材本贈呈
4月11日	第10回JAきたみらい通常総代会
4月19日	全道JA広報コンクール最優秀賞受賞
6月23日	10周年記念協賛事業 サッカーを通して、よい食学ぶ （コンサドレー札幌）
6月27日	新規就農者激励状授与式・交流研修会（21人就農）
7月10日	JAきたみらい10周年フォーラム
7月12日	夏期地区別懇談会（12～18日）
7月20日	合併10周年記念 酪農祭
8月4日	きたみらいKid's 販売体験 in 東京（4～6日）
8月5日	小麦まるごと体験ツアー
8月13日	役員作況調査
9月12日	中ノ島給油所セルフスタンドとして リニューアルオープン
10月2日	第6回JAみらいサミット
10月6日	合併10周年記念 ふれあい農業祭
10月20日	第9回端野農業物産フェア
11月8日	合併10周年記念式典・組合員感謝の集い
11月17日	長いもまつり&収穫感謝祭
12月7日	コンプライアンス研修会
12月24日	1市2町へ鏡餅贈呈
1月23日	端野玉ねぎむき玉選別加工施設完成



1市2町へ芋玉贈呈

置戸町長に目録を贈呈する様子



芋玉と一緒に贈った
食育パンフレット



全道JA広報誌コンクールで
最優秀賞受賞を記念して集合写真



オホーツクJA青年部研修大会の主張発表で
最優秀賞を受賞した林尚哉部員

5月31日 JA事務所に花壇設置

JA女性部訓子府支部は、毎年実施している花壇の設置を行った。今年はマリーゴールド、サルビア、ペコニアの花を約180本植え素敵な花壇を完成させた。花壇は訓子府事務所前や給油所、資材店舗前に設置し、事務所などに訪れる組合員や地域住民の目を楽しませてくれた。



花壇に花を植える女性部のみなさん

6月23日 10周年記念協賛事業 ～サッカー通して”よい食”学ぶ～

JAグループ北海道とコンサドーレ札幌を運営する北海道フットボールクラブは食育に関する協力協定を結んでいる。その取り組みの一環として、JAでも合併10周年記念の協賛事業として同イベントでの食育活動を行った。



コンサ選手の指導を
熱心に受ける子どもたち



地場産もち米を使った食育体験

7月22日 北見・札幌でTPP抗議のデモ行進

TPP交渉参加に抗議するオホーツク総会決起集会を北見芸術文化ホール前で行い、当JAから組合員・役職員290人が参加した。参加者は、地方で安心して暮らし続けるためにも、交渉からの即時撤退が必要だと訴えた。



北見市でデモ行進する組合員・役職員

20年のあゆみ

7月10日

JA合併10周年「フォーラム」開催

農業問題にも詳しいジャーナリストの鳥越俊太郎さんがこのほど、JAきたみらい合併10周年記念事業フォーラムで講演した。環太平洋連携協定（TPP）に触れ、「関税がゼロになったら、市場で競っても太刀打ちできず、日本の農業は壊滅に追い込まれる」と危険性を指摘した。

鳥越さんは、道内JAとホクレンが前年秋に設立したバレイショ消費拡大へ情報発信する「じゃがい問題研究所」所長も務めており、今回「北海道農業の未来」と題して講演した。

「日本の物づくりは、職人によって支えられている。農業に従事する皆さんも職人で、その技術は日本の宝」とたたえた上で、「（その宝が）宿っているのはオホーツク農業や北海道農業だ。この現場から中央に反対のメッセージを発信しよう」と訴えた。



講演を行う「ニュースの職人」鳥越氏



フォーラムに集まった512人の関係者のみなさん

7月20日

JA合併10周年「酪農祭」

JAきたみらい乳牛共進会がきたみらい酪農振興協議会と共催で、訓子府町の北見管内畜産総合施設で行われ、96頭の乳牛が体型の美しさや骨格の力強さなど、資質を競い合った。



未経産・経産の部の最高位、準最高位の栄誉に輝いた4頭と関係者のみなさん

8月17日～27日 実習通して、農業をアピール ～日大の学生が農業実習～

日本大学の実習生の受け入れが行われ、4人の学生が汗を流しながら、北海道農業の「今」を肌で感じ取った。受け入れ先で訓子府地区の斉藤隆さんは「農業の面白さをアピールする良い機会」と話した。



実習生と受入農家の斉藤さん

10月6日 JA合併10周年 「ふれあい農業祭」開催

JAは合併10周年を記念し「ふれあい農業祭」を北見市若松のファミリーランドで開催した。当日は、キャラクターショーをはじめ、地場農畜産物や全国の「JAみらい」や姉妹JAの特産品なども販売し、組合員をはじめとする約1万人の地域住民が来場した。



もちまきの様子

11月8日 「JA合併10周年記念式典」、 「組合員感謝の集い」開催 ～10年の歴史を糧に、新たな発展を誓う～

北見市民会館で「記念式典」と「組合員感謝の集い」を開き、組合員、役職員をはじめ関係者多数出席の中盛大に行われた。式典の中では、JAの発展に顕著な「功労者表彰」、1市2町への「車イス寄贈」が行われ、感謝の集いでは「堀内孝雄歌謡ショー」が行われ、会場は大いに盛り上がった。



表彰された功労者のみなさん

2014

平成26年

主なできごと

2月3日	1市2町へ芋玉贈呈
2月10日	冬期地区別懇談会（10～15日）
3月13日	1市2町の小学校に教材本贈呈
3月25日	生産資材拠点センター落成
4月11日	第11回JAきたみらい通常総代会
6月17日	全道JA広報コンクール 最優秀賞受賞
6月20日	新規就農者激励状授与式・交流研修会（6人就農）
6月28日	役員海外研修（28～7月4日）
7月10日	夏期地区別懇談会（10～16日）
7月19日	第11回JAきたみらい乳牛共進会
8月2日	小麦まるごと体験ツアー
8月12日	役員作況調査
8月30日	第8回きたみらい農業体験&見て歩きツアー
10月15日	第7回JAみらいサミット（15～16日）
10月19日	第10回端野農業物産フェア
11月16日	長いもまつり&収穫感謝祭
12月6日	コンプライアンス研修会
12月25日	1市2町へ鏡餅贈呈



甘みたっぷりイチゴの出荷始まる



置戸町で植え付け体験



きたみらい農業体験&見て歩きツアー

高知県高校生が
農作業を体験



農家の
うちのごはん展



JA女性部訓子府支部 収穫感謝祭

4月11日 TPPから北海道農業を守り抜く 地域農業振興方策を決議

JAきたみらいの第11回通常総代会が北見市内のホテルで開かれ、2013年度事業報告や15年から19年までの第4次地域農業振興方策、中期経営計画を含む15年度事業など議案10件、報告事項1件を承認。また、日豪EPAの大筋合意の影響を受け、なし崩し的決着が懸念される「TPP等国際貿易交渉から北海道を守り抜く」決議案が満場一致で採択された。

委任状提出者を含め各地区の総代371人が出席。13年度事業報告では、昨春の降雪による植え付け遅れと長期的な干ばつの影響により玉葱、馬鈴薯ほか主要な農産物の収穫量が落ち込んだ影響で、同年の農産物取扱高は373億2870万円と計画を0.8%上回るものの、前年に比べ5億4千万円余り下回る結果となった。当期未処分剰余金は5億6600万円を計上した。



総代会であいさつする西川組合長



質問する女性総代の井上幸恵さん

5月12日 TPP交渉断固反対！ ～オホーツク地区街頭啓発行動～

JA北海道中央会北見支所と北見地区農民連盟は、北見、網走、紋別の3市で環太平洋連携協定（TPP）交渉断固反対オホーツク地区街頭啓発行動を一齐に実施した。北見市のJR駅前広場での街頭啓発には関係者約30人が参加し、TPP反対啓発活動のために用意したチラシを通行人に手渡した。



街頭啓発を行う西川組合長

20年のあゆみ

8月20日

素材を生かす食べ方を学ぶ

JAフレッシュミズ置戸支部は、置戸町中央公民館にて管理栄養士の佐々木十美さん指導のもと料理講習会を行い、10名の会員が参加した。使用した食材のほとんどが、会員が持ち寄った採れたての野菜。豊富な夏野菜を素材に、佐々木さんは保存のきくトマトピューレや干し野菜の作り方を指導。メインディッシュにはトマトピューレを活用し、化学調味料を使用しない夏野菜たっぷりのキーマカレーを作った。料理完成后、会員たちは各班で作ったキーマカレーを食べ比べ、材料と分量が同じでも食材の切り方や鍋に入れるタイミング次第で味が引き立つことも学んだ。



サラダの味見をするフレミズ会員



作り方の指導を受けるフレミズ会員

7月17日

玉葱生産者交流会開く 消費地と産地をつなぐ絆

きたみらい玉葱振興会（小野洋一会長）は、JAセンター事務所2階大ホールで平成26年度きたみらい玉葱振興会全体交流会を開催した。生産者や関係者ら197名が出席した。



開会挨拶を行う小野会長

10月19日

端野農業物産フェア

～玉ねぎ・馬鈴しょの詰め放題が人気～

JA端野地区事務所と端野町観光物産協会は、第10回端野農業物産フェアを北見市端野町の同事務所前特設会場で開いた。晴天の下、もち米や青果の格安販売、1袋100円の玉ねぎと馬鈴しょの詰め放題に長い列ができた。

詰め放題では用意した玉ねぎ1.2トンと馬鈴しょ600キロが約30分で売り切れた。JA女性部端野支部とフレッシュミズ端野支部が作った豚汁や、JA産「きたみらい牛乳」の無料提供も人気を集めた。また地場産馬鈴しょを使った「神戸コロッケ」を試食販売した他、常呂漁協からホタテなど海産物を販売、北見市の姉妹都市・宮城県丸森町から交流委員会メンバー16人も訪れ、らっきょうなど特産品を販売した。



人気を集めた玉ねぎ・馬鈴しょの詰め放題



女性部・フレミズによる豚汁無料配布

12月10日

JA青年女性三組織 設立10周年を祝う

JA青年部、女性部、フレッシュミズで組織されるJAきたみらい青年女性三組織10周年記念事業実行委員会は、JA大会議室にて10周年記念式典並びに講演会を行い、歴代役員や部会員ら約100名が出席した。



和歌山県中央会 中家徹会長の講演に聞き入る参加者

2015

平成27年

主なできごと

2月3日	1市2町へ芋玉贈呈
2月9日	冬期地区別懇談会（9～13日）
3月23日	1市2町へ教材本贈呈
4月14日	第12回JAきたみらい通常総代会
7月2日	監事会視察研修（2～3日）
7月3日	新規就農者激励状授与式・交流研修会（14人就農）
7月4日	訓子府給油所 セルフサービス導入
7月14日	夏期地区別懇談会（14～17日）
7月18日	第12回JAきたみらい乳牛共進会
7月23日	役員道内研修（23～24日）
8月1日	小麦まるごと体験ツアー
8月2日	きたみらいKid's 販売体験 in 東京（2～4日）
8月7日	役員作況調査
10月15日	第27回JA全国大会
10月18日	第11回端野農業物産フェア
10月23日	第14回全日本ホルスタイン共進会 北海道大会（23～26日）
11月11日	第28回JA北海道大会
11月12日	役員道内研修
11月15日	長いもまつり&収穫感謝祭
12月3日	第8回JAみらいサミット（3～4日）
12月5日	コンプライアンス研修会
12月24日	1市2町へ鏡餅贈呈



北見市かあさんの朝市会



北見軽トラ市



高知県高校生が来訪



JR北海道北見駅へAED贈呈



鏡餅贈呈

4月22日 春まき小麦の播種順調

JA管内各地で、春まき小麦の播種作業が一斉に行われた。今季は降雪量が多く融雪遅れが懸念されたが、春先に好天の日が続き順調に融雪が進みほぼ例年通りの春耕開始となった。

北見市留辺蘂町旭の多田佳継さんは小麦、てん菜、加工用バレイショ、タマネギなど23㍍を作付ける畑作と野菜の複合農家。うち春まき小麦「春よ恋」は2.4㍍の作付けを予定し、22日から播種作業を始めた。作業幅4㍍のパワーハローとグレンドリルの整地・播種複合機で、RTK-GPSガイダンスシステムのトラクター誘導により1畦とばしの一筆書き走行で圃場を往復し播種作業を行う。

多田さんは「今年は土壌のこなれがよく良好な圃場状況で播種作業ができるので、高収量・高品質な春まき小麦を生産したい」と期待を膨らませていた。



RTK-GPSガイダンスにより真っ直ぐ播種される
春まき小麦



ガイダンスのモニター

7月1日 JA高知市女性部との 意見交換会

JA女性部は、姉妹提携しているJA高知市女性部と、JAセンター事務所で昼食を兼ねた懇親会と意見交換会を開催した。昨年からの続いた相互訪問を機に互いの絆が深まり良い刺激となった。



昨年の訪問を振り返り感謝を述べる
JA女性部斉藤のリ子部長

20年のあゆみ

8月1日

ふれて・見て・食べて 「小麦まるごと体験ツアー」

北見市は、オホーツク産小麦の食文化を広めると共に、地産地消の機運を高め1次産業の理解を深めてもらうことを目的とした「小麦まるごと体験ツアー」を開催した。このツアーは北見市、（財）オホーツク地域振興機構、網走農業改良普及センター、JAが協力して行っており、今年で3回目の開催となった。

一般募集から集まった市内13組29人の親子が参加。初めにきたみらい麦作振興会の西野繁副会長の圃場で、動くコンバインの見学や乗車体験を行った。



西野副会長の圃場で集合写真



小麦の観察を行う参加者

9月5日

北見のおいしさPR ～地産地消フェスタ開催～

地場産農林水産物の消費拡大を目指す北見市地産地消推進委員会は、「地産地消フェスタ2015」を北見芸術文化ホール前で開いた。

今回で6回目となる同フェスタに、市民ら約7,000人が訪れ、直売ブースには、JAなど全27団体が出店し、野菜や加工品などを提供した。



好評の地場産もち米で作った餅まき

10月3日

熊本県学校給食から感謝状贈呈 ～訓子府町玉葱振興会減農薬研究会～

熊本市内にて「熊本県学校給食納入共同組合創立50周年記念感謝の夕べ」が開催された。長年にわたり学校給食に青果物を供給している産地に対し感謝状と記念品が贈られ、訓子府町玉葱振興会減農薬研究会（太田睦会長）が授与された。当会は熊本県学校給食納入協同組合に熊本大同青果を通じて、20年以上にわたり特別栽培玉葱を納入している。太田会長は「今後も安心安全な玉葱を食べてもらえるよう責任をもって栽培したい」と語った。



感謝状を受け取る当JA職員※太田会長欠席のため



感謝状が授与された産地と主催者側との記念写真

10月23日

全日本ホルスタイン共進会にて 「名誉賞」受賞

5年に一度の乳牛のオリンピック「第14回全日本ホルスタイン共進会北海道大会」が安平町の北海道ホルスタイン共進会場で北海道初開催された。都道府県の代表牛374頭が出品され、その内北見地区の山内誠さん出品牛「DH チャンス メイクET」が未經産牛としてのバランス、資質が高く評価され、最高位の賞となる「名誉賞」を受賞した。



「名誉賞」を受賞したチャンスメイク号

2016

平成28年

主なできごと

2月2日	1市2町へ芋玉贈呈
2月8日	冬期地区別懇談会（8～12日）
3月1日	青森県黒石市と平川市に芋玉を贈る
3月24日	1市2町に教材本贈呈
4月12日	第13回JAきたみらい通常総代会
5月7日	きたみらいホルスタインベビーショウ
6月30日	監事会視察研修（30～7月1日）
7月1日	新規就農者激励状授与式・交流会（14人就農）
7月1日	端野給油所 セルフサービス導入
7月11日	夏期地区別懇談会（11～14日）
7月16日	第13回JAきたみらい乳牛共進会
8月1日	JAみらいサミット間人事交流研修会（1～5日）
8月10日	役員作況調査
8月27日	第9回きたみらい農業体験&見て歩きツアー
10月16日	第12回端野農業物産フェア
11月13日	長いもまつり&収穫感謝祭
11月17日	理事道内視察研修（17～18日）
12月3日	コンプライアンス研修会
12月21日	1市2町へ鏡餅贈呈



第1回きたみらい
ホルスタインベビーショウ開催



親子で農業体験&見て歩きツアー



園児らが仔牛の哺乳体験



長いもまつり&収穫感謝祭



JHCチーズ作り

8月17日～31日 連続した台風通過で大きな爪痕

8月の2週間の間に4つの台風が北海道に接近・上陸し、各地で大きな被害をもたらした。JA管内では激しい雨により、無加川に加え常呂川や訓子府川、それらの支流や用排水路が広範囲で氾濫し、作物流亡や表土流出、土砂流入などの大きな被害が発生。圃場被害のほか、倉庫及び収納機械類やビニールハウスなどの被害も報告された。また、この一連の台風等による被害は道内各地にライフラインを含めて大きな爪痕を残し、激甚災害に指定された。



高橋知事に被害状況を説明する西川組合長



被害を受けた倉庫



冠水したてん菜圃場



河川氾濫の被害を受けた圃場



河川氾濫により破壊された道路

20年のあゆみ

3月28日

オホーツク管内で ジャガイモシロシストセンチュウを確認

昨年8月に網走市内の2地区の圃場でジャガイモシロシストセンチュウが確認されたことをきっかけに、当JAは生産者組織連絡協議会を開催し、網走管内における発生後の経緯、JA対応等を確認した。



圃場に設置されている看板

8月1日～5日

JAみらいサミット間 人事交流研修会を実施

JAは「JAみらいサミット間人事交流研修会」を開催し、JA新潟みらい、JA兵庫みらい、JAふくしま未来から3名が参加した。JAの購買部門、販売部門、営農部門を研修し、情報意見交換などを行った。

同研修会では、JAきたみらいが昨年7月から稼働した営農支援システムを紹介し、組合員ふれあい室からは、営農相談業務に携わる担当職員1人に1台のタブレット端末を配した取組事例のなかで、「新人職員や異動から間もない職員でも一定の情報提供を目指してプロジェクトチームを発足させた」とシステム導入の経緯と稼働状況を説明した。



産地間の栽培動向について話し合う
生産者とJAふくしま未来の職員



職員間での意見交換

7月1日

世界一長い野菜の串焼き ギネス世界記録認定

北見市の学校法人栗原学園が、北見産の玉葱を使った「世界一長い野菜串焼き」でギネス世界記録に挑戦。“56.89メートル”で記録を更新し、ギネス認定を受けた。

ギネス認定種目の「世界一長い野菜串焼き」は北海道内では9例目、道東地区でも小清水町に続く2例目で、北見市では初めて。同学園は昨年、創立60周年を迎え、節目の記念事業とし、構想から実現まで1年半の時間を費やし、かつて世界一の薄荷生産の場だったこの地域を、日本一の生産量の玉葱で新たな世界一を造るため地場産玉葱にこだわって挑戦した。



世界一長い野菜の串焼き

11月14日

玉葱の輸出本格化へ ～北見産農作物輸出促進協議会設立～

北見市と当JA、JAところは、北見産玉葱のロシア向け輸出を本格的に取り組むため、北見市、北海道銀行、JA、ホクレン、北見通運を含めた官民一体の組織を発足した。今後は来年からの本格輸出に向けロシア企業を北見市に招待し、玉葱圃場や選果場などを視察するなど人的交流を開始した。



北見産農作物輸出促進協議会発足

2017 平成29年

主なできごと

2月2日	1市2町へ芋玉贈呈
2月7日	冬期地区別懇談会（7～10日まで）
4月11日	第14回JAきたみらい通常総代会
6月3日	玉ねぎ集出荷貯蔵施設 着工
6月30日	新規就農者激励授与式・交流研修会（14人就農）
7月1日	相内給油所セルフサービス導入
7月3日	第9回JAみらいサミット（3～4日まで）
7月11日	夏期地区別懇談会（11～14日まで）
7月15日	第14回JAきたみらい乳牛共進会
8月6日	きたみらいKid's販売体験in東京（6～8日まで）
8月9日	役員作況調査
8月26日	第10回きたみらい農業体験&見て歩きツアー
9月4日	選別作業員が統一ユニフォームを着用
9月12日	常呂川災害復旧工事 端野地区現場視察
9月23日	北方四島から訪問団の来北
10月30日	訓子府玉ねぎむき玉選別加工施設完成
12月2日	コンプライアンス研修会
12月21日	1市2町へ鏡餅贈呈

4月19日 職員向け ドローン講習会を開催

小型無人航空機ドローンを取り扱っている(株)コハタ営業部から講師を招き、ドローンの取り扱い方など講習会を職員向けに開催した。

JA職員と網走農業改良普及センターの職員47名が参加し、ドローンを飛行させるにあたっての航空法や取り扱い方について説明を受け、実際に体験フライトなどを行った。

JAでは、昨年度より農業の生産現場でドローンを有効活用できないか検討を始め、今年度から各地区事務所に1台配置。作物の異常を空撮によって確認することや災害発生時に被害の状況を把握するなどの災害対応として活用していく。



ドローンの取扱い方を学ぶ参加者



体験フライトの様子

6月8日 初めてのスポーツ交流会を開催 ～JA青年部置戸支部・JAフレミズ置戸支部～

JA青年部置戸支部とJAフレッシュミズ置戸支部は、置戸町旧秋田小学校体育館にて初めてのスポーツ交流会を開催し、併せて22名が参加した。

競技は玉入れ、ドッジビー、リレーの3種目で青年部・フレミズ混合の3チームが合計点を競った。



お着替えリレーに参加する青年部員

7月10日 園児がじゃがいもの収穫体験 ～JA青年部置戸支部～

JA青年部置戸支部は、部員9名が講師となり、「置戸町こどもセンターどんぐり」の園児32名とじゃがいもの収穫体験を行った。



じゃがいもを収穫する園児たち

8月26日 収穫や見学 親子で楽しむ ～農業体験&見て歩きツアー～

農作物の収穫体験や選果施設を見学して農業や食の大切さについて学んでもらうことを目的に「農業体験&見て歩きツアー」を訓子府町で開催した。



収穫を行う参加者

20年のあゆみ

8月6日

きたみらいKid's 野菜の販売を体験

正組合員のお子さんを対象とした「きたみらいKid's販売体験in東京」を開催し、12人が参加。

この事業は食農教育活動の一環で、農家のお子さんに農業の重要性や食の大切さを伝え、将来の農業の担い手やサポーターになってもらうことを目的に実施。店頭に立った子どもたちは「北海道のおいしい玉ねぎとじゃがいもです!」「私のお父さん、お母さんも玉ねぎとじゃがいもを作っています!」などと恥ずかしながらもお客さんとの会話を楽しみながら、接客を行った。また、大田市場では市場の役割や仕事の内容について説明を受け、段ボールがたくさん積み上げられた場内を一望することができ、良い経験となった。



農作物をPRするKid's



大田市場を見学するKid's

10月15日

端野農業物産フェア

～玉ねぎ・馬鈴しょの詰め放題が人気～

JA端野地区事務所と端野町観光物産協会は、第13回端野農業物産フェアを北見市端野町の同事務所前特設会場で開催した。晴天の下、もち米や青果の格安販売や、玉ねぎと馬鈴しょの詰め放題に長い列ができた。



人気を集めた玉ねぎ・馬鈴しょの詰め放題



女性部・フレッシュミズ 初めての農作業安全講習会を開催

JA女性部とフレッシュミズは合同で、初めての農作業安全講習会を開催し、部会員ら47人が参加。農作業事故の発生事例について現場の再現写真や映像をもとに、事故防止方法について知識を深めた。



ソフトボールで交流を深める

JA青年部は6月28日、全青年部員と新人職員を対象に交流を深めることを目的とした「ソフトボール大会」を開催した。



選別作業員が統一ユニフォームを着用

JAの玉ねぎ・馬鈴しょ選果施設の全12施設で働く選別作業員約500人に統一したベストと帽子を配布。JAロゴマークをいれるなど一致団結し品質・作業効率アップに取り組むことを狙いに作られた。



カレーライスマラソン開催

JAなど7団体で構成する、たんのカレーライスマラソン実行委員会主催の「第32回たんのカレーライスマラソン」が9月17日、北見市端野町で開催され、道内外から211チーム約850人が出場した。



相内給油所 セルフサービス導入



フレッシュミズ「運動会」